

## 論 文

# 注腸 X 線検査の前処置の検討

## — 下剤の服用時刻による比較 —

永山 弘美・藤田久美子・作田 智子・東 ひろ美  
田島 恵美・鶴賀加代子・芽納 美穂・架間ゆき子  
(金沢市立病院)

Study on the preparations for the air-contrast barium studies  
of the colon : Times to take the laxatives

Hiromi Nagayama, Kumiko Fujita, Tomoko Sakuta, Hiromi Azuma,  
Emi Tajima, Kayoko Turuga, Miho Kayano and Yukiko Kazama  
Kanazawa City Hospital

### 要 旨

注腸 X 線検査の前処置は、検査前日の就寝前に下剤を服用する方法が一般的である。しかし、この方法は夜間の頻回な排便や嘔気などの副作用による患者の苦痛も大きい。そこで本研究は、下剤の服用時刻を早めることで、前処置としての効果をそこなわずに、患者の苦痛を軽減することを目的とし、従来の20時に下剤を服用する方法(20時群)と、夕食後の18時に下剤を服用する方法(18時群)を比較検討した。その結果、以下の結論が得られた。

空腹感ありは、両群に違いがみられなかった。嘔気ありも有意差はみとめられなかったが、やや20時群の方が高い傾向があった。平均排便回数は、両群とも5.0回であり同じであったが、時刻で見ると、18時群では平均排便回数のピークが1回で20時にあり、24時以降横ばいになるのに対し、20時群では、平均排便回数のピークが21時22時と翌朝6時の2回あり、横ばいとなるのは2時から4時までの2時間であった。腸管の洗浄状態は、残渣ありが18時群13.8%であり20時群の9%をやや上回ったが、バリウムのコーティング状態では、両群に差がみとめられなかった。